

アメリカ穀物バイオプロダクツ協会
2025年12月3日発表

2025年米国トウモロコシ収穫量は過去最大、BCFMは少なくとも15年で最低水準

アメリカ穀物バイオプロダクツ協会（USGBC）が今週発表した2025/2026年度トウモロコシ収穫時品質報告書（世界的に公開された15回目の年次調査）によると、2025年の米国トウモロコシ作柄は過去最大となる見込みで、4億2553万トン（167億5200万ブッシュル）に達する。さらに本報告書史上最低の破損粒・異物混入率（BCFM）を記録しており、米国トウモロコシ産業全体にとって素晴らしい成果と言える。一般的に良好な生育期条件が相まって、予想平均収量は過去最高の1ヘクタール当たり11.67トン（1エーカー当たり186ブッシュル）に達し、良質な穀粒が育成された。

2025年の生育期は、作付け後の温暖で乾燥した条件、受粉期の湿潤な条件、そして初期の粒形成期にかけて次第に涼しく乾燥した天候が特徴であった。

今年の収穫は、平均して、米国No.1グレードのトウモロコシの等級要因の数値要件をすべて満たす、あるいはそれを上回る特性で市場に出回っている。この報告書によると、サンプルの87.1%が米国No.1グレードの等級要因の要件をすべて満たし、97.8%が米国No.2グレードのトウモロコシの等級要因の要件を満たしている。

「当協会の年次品質報告書は、国際的な農業分野において高く評価されており、世界中の購入者やエンドユーザーが、自らの事業に最適な選択肢を見極めるために活用されている」と、USGBC会長のマーク・ウィルソンは述べている。

「今市場年度では、米国の農家が世界のトウモロコシ輸出量の38.4%を占めると推定されており、米国の生産者の優れた生産手法と、世界の顧客基盤における米国産トウモロコシの評判の高さが伺える」と述べている。この報告書は、トウモロコシの主要生産・輸出州12州内の特定地域から採取した621個のイエローコーンのサンプルに基づいている。現地の穀物エレベーターから入荷サンプルを収集し、産地での品質を測定・分析するとともに、さまざまな地域における品質特性の変動に関する代表的な情報を提供している。2025年の米国の平均BCFM（0.3%）は、2024年の半分であり、品質レポートの15年の歴史の中で最低値であった。また今年のトウモロコシのタンパク質含有量

は 8.4% を記録した。化学組成は健全な範囲を維持しており、全検体でアフラトキシン両成分が米国食品医薬品局（FDA）の規制基準値を下回った。

アメリカ穀物バイオプロダクト協会は 2026 年第 1 四半期に、日本、ラテンアメリカ、メキシコ、サウジアラビア、南アジア、韓国、台湾の顧客を対象とした一連の説明会を開催し、本マーケティング年度のトウモロコシ品質に関する明確な見通しを提示する。これらの取り組みは、作物の品質情報に加え、米国産トウモロコシの東急・取扱に関する最新情報を提供し、輸入者やエンドユーザーに対し、輸出ルートにおける米国産トウモロコシの流通・管理方法についてより深く理解に資することを目的とする。

2025/2026 年度トウモロコシ収穫時品質報告書の全文と関連説明会の日程は、協会ウェブサイトでご確認ください。日本では、市場関連情報も併せ 2026 年 1 月 22 日（木）に予定しています。さらにアメリカ穀物バイオプロダクト協会では、2026 年初頭に公開予定の第二の調査報告書『2025/2026 年度トウモロコシ輸出貨物品質報告書』において、輸出港湾における積載時点のトウモロコシの品質を報告いたします。